

第 30 期

(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

事 業 報 告 書

公益財団法人 双日国際交流財団

第30期（平成28年4月～平成29年3月） 事業報告書

公益法人へ移行後5期目となった第30期、平成28年度（平成28年4月1日～平成29年3月31日）は、基調事業としての学術研究助成、奨学金助成、国際交流助成等の助成事業を実施し、またその他事業として、機関誌「財団だより第13号」の発行と関係先への配布及び財団ホームページの管理・運営を継続、実行した。

財団の財政収支面では、今年度も双日株から事業費及び管理費向に500万円の寄附があった。基本財産の運用においては、依然として金利水準が低迷する中、平成28年度年間で3,919万円の運用収益を確保できた。

基本財産を形成している債券の価額は、評価益が3,253万円減少となり、今期末の基本財産額は前期末比3,240万円減少の合計22億3,403万円となった。

〔I〕 今期の事業の概要

a. 助成事業

今年度の助成事業は、平成28年度事業計画に定められていた34案件計3,195万円の助成を実施した。

以下に、各助成案件の概要を報告いたします。

イ) 学術研究助成

- ・ ライシャワーセンター/日米関係研究活動への助成 (80万円)

日本理解を促進し日米関係の健全な育成のために行うジョン・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院同センターの下記諸活動に対して助成。

- ① 日米関係年次報告書制作プロジェクト
- ② 日本人客員研究員招聘プロジェクト
- ③ 米国での日本研究促進プロジェクト 他

ロ) 奨学金助成

- 1. 当財団奨学金制度による外国人私費留学生への奨学金助成 (1,776万円)

今年度5月～6月の補充選考を経て、前年度に続き、合計16名の以下の奨学生に対し奨学金を支給した。

- ① ジャレ カジユクリ ネジャド (東北大学大学院 医学系研究科)
- ② ソリナ (東京大学大学院 農業生命科学研究科)
- ③ ロウ イカン (一橋大学大学院 経済学研究科)
- ④ キンユア レイバン キスインジ (上智大学大学院 グローバルスタディー研究科)
- ⑤ ソン ヨオク (慶応義塾大学大学院 法学研究科)
- ⑥ チョウ ゲイトウ (京都大学 工学部)

- | | |
|-------------------|----------------------|
| ⑦トリバー三世・クアアンス ヘルー | (九州大学大学院 工学府) |
| ⑧ビャンバ ボロルチメグ | (北海道大学大学院 環境科学院) |
| ⑨タマウォング ナタポング | (筑波大学大学院 生命環境学群) |
| ⑩クーリング カタリナ | (早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科) |
| ⑪アフザル ナヴィード | (東京工業大学大学院 情報理工学研究科) |
| ⑫リュウ イモウ | (東京工業大学 工学部化学工学科) |
| ⑬アブドサラム アリキン | (横浜国立大学大学院 教育学研究科) |
| ⑭アルマスリ ヤヒヤ | (大阪大学大学院 国際公共政策研究科) |
| ⑮ナルツエフ オタバック | (神戸大学大学院 法学研究科) |
| ⑯グエン カン ツー ハ | (立命館アジア大学 アジア太平洋学部) |

2. 国際大学奨学金制度への助成 (120万円)
 国際大学が、同大学に在籍する外国人私費留学生に支給する同大学の奨学金制度の中の **Sojitz Foundation Scholarship** に対して助成を行った。

ハ) 国際交流助成
 (国際会議等)

1. 「第 68 回 日米学生会議」への助成 (40万円)
 「個人として、一員として、変わりゆく未来に立ち向かえ～終わりなき対話と自己理解・相互理解～」をテーマに米国内 4 地域を巡りながら率直な対話を重ね相互理解を深めた。
 又、出発前に事前の勉強会・研修を行った。
 開催時期： 2016 年 8 月 3 日～24 日
 開催地： アメリカ (ボストン、ワシントン DC、モンタナ州、サンフランシスコ)
 参加人員： 日本側 36 名、 米国側 34 名 計 70 名
2. 「第 35 回 日中学生会議」への助成 (40万円)
 『『百聞』を論じ、『一見』して気づく夏～個から広がる相互理解の輪～』の理念の下、議論を行い、日中間の現在の関係に相互理解を深めた。
 開催時期： 2016 年 8 月 7 日～25 日
 開催地： 中国 (北京・上海・広州)
 参加人員： 日本側 31 名、中国側 31 名 計 62 名
3. 「第 32 回 日韓学生フォーラム」への助成 (40万円)
 「Open the new HORIZON」をスローガンに、韓国で開催。オリンピック、資源とエネルギー、ジェンダー、教育の歴史、世論をテーマにしたシンポジウムを開催し、政治/経済/歴史/社会/文化の分科会にてそれぞれテーマを設定してディスカッションを行った。
 開催時期： 2016 年 8 月 10 日～25 日
 開催地： 韓国 (釜山・大田・ソウル)
 参加人員： 日本側 13 名、韓国側 15 名 計 28 名

4. 「第 28 回 日本ロシア学生会議」への助成 (40 万円)
「自動車産業における日ロの共同事業」、「政治」、「老後の生活を中心としたさまざまな社会問題について」、「日ロ間における観光」について、現状分析、課題抽出、解決策を案出し、意見交換をした。都内の社会見学・観光も行った。
開催時期： 2016 年 8 月 2 日～23 日
開催地：日本（関東地区及び新潟市）
参加人員： 日本側 15 名、ロシア側 16 名 計 31 名
5. 「第 20 期 日本インド学生会議」への助成 (40 万円)
インフラ、文化、社会と科学、教育の諸問題についての分科会討論を行い、インド各地の企業・施設訪問を通じて理解を深め、文化交流も行った。
開催時期： 2016 年 8 月 10 日～9 月 5 日
開催地： インド（コルカタ・チェンナイ・デリー）
参加人員： 日本側 10 名、インド側 20 名 計 30 名
6. 「第 17 期 日本ケニア学生会議」への助成 (35 万円)
ケニアの 4 大学で、地域特性、国際協力、教育につき分科会討論を行った。分科会テーマに付き日本大使館でシンポジウムを開催した。
開催時期： 2016 年 9 月 4 日～16 日
開催地： ケニア（ナイロビ・ナクル）
参加人員： 日本側 6 名、ケニア側 52 名 計 58 名
7. 「第 62 回 国際学生会議」への助成 (40 万円)
「開かれた対話から実感する多様性～未来を創る私たちが今考えよう～」をテーマに、分科会(ユース世代の難民問題、教育による幸福の実現可能性、人道的介入、持続可能な社会と国際協力、平和に向けた最善の政策決定プロセスとは)でのディスカッション、研修旅行、日本文化体験などを通して交流した。
開催時期： 2016 年 8 月 25 日～9 月 6 日
開催地： 日本（東京、京都、大阪、神戸、岡山、九州）
参加人員： 11 カ国から 55 名が参加（日本 36 名）
8. 「第 14 回 日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議」への助成 (40 万円)
5 つのトピック、「日常の困難」「メディア」「教育」「軍と力の行使」「現状とその先へ」についてプレゼンテーション、質疑応答、議論を通してお互いの理解を深めた。又、一般向けにシンポジウムを開催した。
開催時期： 2016 年 8 月 6 日～23 日
開催地： 日本（広島、東京）
参加人員： 日本 14 名、イスラエル 7 名、パレスチナ 1 名 計 22 名

9. 「グローバル・ネクストリーダーズフォーラム 2016 本会議日本大会」への助成
(35万円)
日本、アフリカ、中近東、東欧など13ヶ国からの学生・教授、42名が東京に集り、「Sustainability」をテーマに、社会、自然資源、経済活動の分野で学び、議論を行った。
開催時期： 2017年2月6日～15日
開催地： 日本（広島・東京）
参加人員： 日本13名、エジプト、オーストラリア、キルギスタン、ブルガリア、南アフリカ、中国等より29名 計42名
10. 「第20期 日本トルコ学生会議」への助成 (35万円)
食生活、貿易、広告・宣伝につき分科会討論を行った。文化交流も行った。
開催時期： 2016年7月17日～23日
開催地： 日本（東京）
参加人員： 日本側7名、トルコ側3名 計9名
11. 「第15回 日本ルワンダ学生会議」への助成 (35万円)
「多文化共生」、「LGBT」、「生物多様性」をテーマに様々な機関・個人を訪問し、意見の交換を行った。日本とルワンダの学生がプレゼンターとなり、高齢社会やルワンダの文化、テクノロジーなどについて学び、ディスカッションを行った。
開催時期： 2016年8月1日～16日
開催地： 日本（東京、群馬）
参加人員： 日本16名、ルワンダ4名 計19名
13. 「日中学生交流団体 free-bird CHINA TRIP 2016」への助成 (30万円)
「オリンピックと国民性」をテーマに討論会を行い、更に「サービス」「交通」「環境」の面より種々討議を行った。発表会は日本大使館で行った。北京観光も行った。
開催時期： 2016年8月14日～23日
開催地： 中国（北京）
参加人員： 日本側13名、中国側22名 計35名
14. 「2016年度日中青年会議」への助成 (35万円)
「平和とは類似性により団結することではなく、多様性の中にありながらも互いを比較し、調停することによって団結することである」をテーマに日中間の共通点や相違点を議論して、お互いに理解を深めることができた。
開催時期： 2016年7月22日～28日
開催地： 中国（香港）
参加人員： 日本15名、中国20名 オーガナイザー 30名 計65名

15. 「北東アジア学生ラウンドテーブル 2016」への助成 (30万円)
「学生視点で切り開く北東アジアの将来」というテーマで4ヶ国の学生が、機会均等、起業、教育、報道の分科会で議論をしてお互いに理解を深めた。
開催時期： 2016年7月31日～8月8日
開催地： 台湾(台北)
参加人員： 日本20名、モンゴル8名、韓国16名、台湾30名 計74名
16. 「日本中東学生会議 2016年度招聘事業」への助成 (30万円)
「軍と社会」をテーマとして、討議した。アラブ首長国連邦、ヨルダン、エジプトの参加者からはそれぞれの国の説明があり、日本からは自衛隊に付き説明し、質疑応答が行われた。文化交流・フィールドワークも実施した。
開催時期： 2016年8月15日～23日
開催地： 日本(東京)
参加人員： 日本側11名、中東側6名 計17名
17. 「2017模擬国連会議全米大会第34代日本代表団派遣事業」への助成 (25万円)
今年度の提携校サンフランシスコ州立大学の学生と交流を行い日本文化の紹介をした。ニューヨークでは国連が取り扱う国際問題を解決する為に議論をした。サンフランシスコ州立大学との合同代表団で、フィンランド大使という立場で各会議に参加した。
開催時期： 2017年3月29日～4月13日
開催地： アメリカ(サンフランシスコ、ニューヨーク)
参加人員： 日本側10名、アメリカ・ドイツ・フランス・中国・南アフリカなど300以上の大学から約5,000名
18. 「Y20 Youth Summit 2016」への助成 (30万円)
毎回G20サミット開催に合わせて開かれるこのYouth Summitは、今年度は、中国での開催となった。事前活動において種々意見交換を行い、会議では「貧困撲滅と共同開発」、「企業家精神と創造的思考」、「社会的公正と機会均等」および「グリーンライフと継続性」等につき討議を行い、G20のリーダーへの提言を行った。
開催時期： 2016年7月24日～30日
開催地： 中国(北京、上海)
参加人員： 日本側5名、G20諸国及び招待国より97名 合計102名
19. 「第31回 日韓学生会議」への助成 (40万円)
「更なる躍進 縁の力で」をテーマに分科会(日韓両国の立法過程上の問題点及び解決策、在日コリアンと在韓日本人の歴史、新年行事、ひとり親家庭のための政策の課題と改善策)にて討論し、シンポジウムを開催した。観光・文化交流も行った。
開催時期： 2016年8月5日～19日
開催地： 日本(東京)

参加人員： 日本側 11 名、韓国側 12 名 計 23 名

20. 「STeLA Leadership Forum 2016 Okinawa」への助成 (35 万円)

次世代の国際的理工系リーダーを目指す日本・ヨーロッパ・中国の理工系学生が一堂に会し、「科学と技術の将来」をテーマに、リーダーシップを学び、持続可能な開発目的という課題でワークショップを行った。

開催時期： 2016 年 8 月 21 日～30 日

開催地： 日本（沖縄）

参加人員： 日本 15 名、中国 11 名、ヨーロッパ・中東 14 名、 計 40 名

(国際交流)

21. 「“Mr.J”プロジェクトチーム 日本語夏期講習サマースクール」への助成 (40 万円)

ウランバートルにある「新モンゴル高校」を舞台にして、日本の大学生が教師役となり、モンゴル高校卒業予定者を対象に、日本の詩や歌を含む日本語の授業、日本の社会生活の学習を行うサマースクールが開催された。スピーチコンテストも実施した。

開催時期：2016 年 7 月 29 日～8 月 26 日

参加人員：日本 9 名、生徒：250 名

22. 「CEPEX Japan Studies Award」への助成 (US \$ 3,000. - ≒ 31 万円)

米国の NPO 法人 CEPEX が、行うアメリカ人日本専門家育成プログラム「Japan Studies Award」。このコンテストの優勝者には、ワシントン DC の日本企業での 12 日間のインターンシップの経験及び 5 日間の日本訪問の機会が与えられ、参議院選挙と若者の選挙権について考察が行われた。

開催時期： 2016 年 5 月 16 日～27 日、6 月 7 日～11 日

開催地： 米国（ワシントン）、日本（東京）

23. 「日韓のことばを学ぶ中高交流プログラム 2016」への助成 (30 万円)

ダンス(k-pop)をテーマに、韓国語を学ぶ日本の中高生と日本語を学ぶ韓国の中高生が、協同活動を通じて交流し、お互いの文化への理解を深め、新たな自分を発見し、視野を広げた。

開催時期：2016 年 8 月 4 日～8 日

開催地： 韓国（ソウル）

参加人員：日本 18 名、韓国 18 名 計 36 名

24. 「日本・インドネシアの若手ソーシャルリーダー育成・交流事業」への助成 (30 万円)

インドネシアへの渡航前から数回研修会を行った。ワークショップを開催し、様々な分野に付き意見交換をした。ホームステイ・文化交流をした。

開催時期：2016 年 8 月 24 日～9 月 5 日

開催地： インドネシア（ジャカルタ）

参加人員：日本選抜4名、インドネシアの研修候補生：50名

25. 「第6回日中学生交流」への助成 (30万円)
中国の地方の大学生を日本に招き、関西の大学生と交流を行った。大阪市環境局舞洲工場見学、文楽鑑賞などを行い日本の文化への理解を深めてもらった。
開催時期： 2016年6月4日～10日
開催地： 日本(大阪)
参加人員： 日本66名、中国7名 計73名
26. 「Experience Japan Project 2016」への助成 (30万円)
「地方創生の食によるアプローチ」について議論を深め、東京や東北でフィールドワークを行い、自国との比較により発見した問題に対する解決策を考察した。
開催時期： 2016年9月1日～10日
開催地： 日本(東京、会津)
参加人員： 日本16名、マレーシア、フィリピン、ベトナム等より9名 計25名
27. 「International Development Field Camp for Myanmar and Japan Youth Leaders 2017」への助成 (30万円)
国際関係、教育、地域開発の分科会でフィールド調査を行い、議論を行い、シンポジウムを開催した。
開催時期： 2017年2月14日～21日
開催地： ミャンマー(ヤンゴン)
参加者： 日本26名、ミャンマー26名 計52名
28. 「MPJユース2016年度アフリカ研修事業」への助成 (30万円)
政府機関、国際機関等を訪問し、ホームステイを行い、「経済」「教育」「社会問題」「社会」をテーマとして、4分科会でガーナ大学生とのディスカッションを行い、お互いに理解を深めた。
開催時期： 2017年2月12日～24日
開催地： ガーナ(アグラ)
参加者： 日本13名、ガーナ20名 計33名
29. 奨学生交流会 (188万円)
財団の奨学生同志及び財団役職員との交流・親睦の為、並びに奨学生ネットワーク作りを目指し、毎年開く奨学生交流会。初日は、奨学生、財団役職員及び双日(株)の関係者も加わっての東京のホテルでの懇親会、2～3日目は千葉・東京方面への研修旅行というプログラムで開催された。この交流会を通じ、奨学生同志の親睦が一層深まった。
開催時期： 2016年9月15日～17日
参加者： 奨学生・奨学生OB 20名、役員他関係者 32名 計52名

(日本文化紹介等)

30. 日本・ハンガリー文化交流～南魚沼市若宮八幡宮御神楽の紹介と実演 (30万円)

南魚沼市若宮八幡宮の里神楽を紹介し、日本の農村文化の一端に触れてもらおうと
共に、習字や折り紙、歌謡などの日本の庶民文化を実演したほか、江戸期日本における
ハンガリーのイメージについて講演会を実施した。

開催時期： 2016年8月22日～25日

開催地： ハンガリー(ケチケメート、セグド)

参加人員： 日本22名 観客1,000名

(日本語普及事業等)

31. 「第21回海外高校生による日本語スピーチコンテスト」への助成 (30万円)

各国の予選を通過した代表を日本に招聘し、スピーチコンテストが行われた。
異文化交流プログラムも行われ、お互いの文化を理解し、ホームステイも行われ、国
境を超えた友情を深めた。

開催時期：2016年7月23日～8月4日

開催地： 日本(川崎・松山)

参加者： 15カ国(中国、韓国、アメリカ、イギリス、ロシア等) 計17名

大会観客1000名、各国(予選)大会総出場者 約3万名

32. 「Japanese Language Inspired Vision and Engagement Talk」への助成 (30万円)

全米から応募を集め、3クラスにて発表内容、プレゼンテーション能力に重きをおいた
コンテストを行った。クラスの優勝者には日本での短期間学習の機会が
与えられた。

開催時期： 2016年11月13日

開催地： 米国(ワシントン)

参加人員： コンテスト10名、他参加者87名 合計97名

b. その他の事業

「その他の事業」として、次の2事業を行った。 合計143万円。

1. 財団ホームページの更新・運営 (35万円)

前年度に引き続き、外部に対する情報発信ツールとしての財団ホームページの更新・
維持・運営を行った。

2. 「財団だより - 第13号」の発行 (108万円)

平成28年9月「財団だより - 第13号」を発行し、関係省庁、他財団ほか助成先、財
団関係者、母体会社の双日株式会社の本社・支社・海外店及び関係会社に配付し、平
成27年度の事業報告及び財団の活動のPRを行った。

[II] 管理・庶務事項

- 平成 28 年 4 月 1 日 平成 28 年度奨学生募集を開始
- 5 月 16、17 日 会計監査人による決算監査
- 5 月 31 日 第 90 回選考委員会を紙上開催
- ・平成 28 年度奨学生 9 名を補充選考
- 6 月 13 日 第 88 回理事会を開催
- ・平成 27 年度事業報告書及び決算報告書を承認
 - ・6 月 29 日の定時評議員会開催を決議
 - ・平成 28 年度奨学生 9 名を承認
 - ・理事長・専務理事の職務執行状況の報告
- 6 月 29 日 第 68 回定時評議員会を開催
- ・評議員 1 名、監事 1 名の選任
 - ・平成 27 年度の事業報告並びに決算報告を了承
- 6 月 30 日 平成 27 年度事業報告書並びに決算報告書を行政府「内閣府」に提出
- 9 月 8 日 機関誌「財団だより 第 13 号」を発行
- 9 月 15 日～17 日 「財団奨学生交流会」を開催
- 11 月 1 日 平成 29 年度国際交流助成募集開始
- 12 月 31 日 平成 29 年度国際交流助成募集〆切
- 平成 29 年 2 月 15 日 第 91 回選考委員会を開催
- ・平成 29 年度助成案件を選考
- 3 月 15 日 第 89 回理事会を開催
- ・平成 29 年度助成案件(案)及び平成 29 年度事業計画(案)を承認
 - ・平成 29 年度収支予算(案)を承認
 - ・選考委員 1 名を選出
 - ・資金管理規程、特定個人情報管理規程等を制定
 - ・理事長・専務理事の職務執行状況の報告
- 3 月 30 日 平成 29 年度事業計画書及び収支予算書を内閣府に提出

以 上